

---

にほんじん かみ  
日本人は神への  
ちしき  
知識がないために  
ほろ  
滅ぼされる!!

---

ひがしにほんだいしんさい お  
東日本大震災はなぜ起きた？  
かみ じんるい けいこく  
～神から人類への警告～

# 目次

この冊子を、偶然 <small>さつし</small> はなく手 <small>て</small> にされた“あなた様 <small>さま</small> ”に……	2
神 <small>かみ</small> から全人類 <small>ぜんじんるい</small> へ……	6
【カルト】からの解放 <small>かいほう</small> ……	9
神 <small>かみ</small> の怒り <small>いか</small> は三 <small>さん</small> 、四代 <small>よんだい</small> に及ぶ <small>およ</small> ……	15
東日本大震災 <small>ひがにほんだいしんさい</small> の原因 <small>げんいん</small> ……	16
イエス様 <small>さま</small> の血 <small>ち</small> の力 <small>ちから</small> ……	21
神 <small>かみ</small> の愛 <small>あい</small> を見えなくさせる人間 <small>にんげん</small> の情 <small>じょう</small> ……	24
情 <small>じょう</small> にまかれているクリスチャンへの警告 <small>けいこく</small> ……	29
神 <small>かみ</small> の守り <small>まも</small> の中 <small>なか</small> に入る <small>はい</small> ……	31
○イエス・キリストと助け主 <small>たすぬし</small> =聖霊 <small>せいれい</small> を受け入れる <small>うい</small> (主 <small>しゅ</small> への告白 <small>こくはく</small> の祈り <small>いの</small> )……	32
聖書 <small>せいしょ</small> を信じていない皆 <small>みな</small> さんへ……	35
世 <small>よ</small> の終わり <small>お</small> が近い <small>ちか</small> ……	37
最後 <small>さいご</small> に……	39
○カトリックの皆 <small>みな</small> さんへ……	41
○プロテスタントの皆 <small>みな</small> さんへ……	42
「ぶどうの木 <small>き</small> 」の紹介 <small>しょうかい</small> ……	46

【主は言われる、「あなたがたはわが証人、わたしが選んだわがしもべである。それゆえ、あなたがたは知って、わたしを信じ、わたしが主であることを悟ることができる。わたしより前に造られた神はなく、わたしより後にもない。ただわたしのみ主である。わたしのほかに救う者はいない。わたしはさきに告げ、かつ救い、かつ聞かせた。あなたがたのうちには、ほかの神はなかった。あなたがたはわが証人である」と主は言われる。「わたしは神である、今より後もわたしは主である。わが手から救い出さうる者はない。わたしがおこなえば、だれが、これをとどめることができよう。】

(聖書イザヤ書43章10節～13節)

この冊子を、偶然はなく手にされた“あなた様”に…

どうしても、何とかして、一人でも多くの人に、まずは同じ日本人に伝えたい、伝えなければならない、何よりも大切な事があります！でもそれは、【あなたの目がまだ見ず、あなたの耳がまだ聞かず、あなたの心に今まで思い浮かびもしなかったこと】かもしれません。あなたにとっては、とても受け止められない、受け入れ難い、ひどい事実かもしれません。あなたの人生にとって大革命で、あなたを悩まし苦しめる話かもしれません。

それでも、人間として、今、同じ時代を生きる日本人として、どうしても聞いていただきたい、知ってもらいたい、何とかして伝えたい、その気持ちが勝る事なのです。

私たちがくぶどうの木>のあふれる思いが、強い願いが、この冊子誕生の原動力となり、今あなたの御手元に至りました。どうか、途中でやめる事なく、必ず最後までご一読下さい。

この冊子をたとえて言うならば、近年ニュースで耳にするようになった『入り江に迷い込んだ鯨』を、何とかして大海原に戻そうと誘導するもの。また、『矢の刺さったカモ』・“矢ガモ”を、何とかして捕まえて矢を抜き、楽に元気によみがえらせてあげたいと願い働きかけるものであります。

あなたがその“鯨”だとしたら、あなたがその“矢ガモ”だとしたら… なんとしてでも命に導きたいのが、私たちがくぶどうの木>の思いです。

私たち自身も、かつてはその“鯨”、その“矢ガモ”でした。水のない浅瀬で、苦しみがき死んでいく鯨、矢を抜いてもらう

ことから逃げまどい、失血死に至るカモ、私たちはそんな人間で  
した。だからこそ、大海原に戻された時、矢を抜いてもらった時  
の言葉にあらわせない感謝の気持ちも知っているのです。

あなたが『裸の王様』だとしたら・・・私たちは「王様、裸です！」  
と言います。無視されるかもしれない、「うるさい！」と怒鳴ら  
れるかもしれない、「なんて失礼な事を言うのか！」とたしなめ  
られるかもしれない、もしかしたら殺されるかもしれない・・・それ  
でも、伝えてみます。それが人間として、本当の愛だと信じている  
からです！見て見ぬふりや、無関心は愛のないあらわれ、それが  
今の日本、日本人をつくったと私たちは思っています。  
その時は、王様（あなた）もまっすぐ素直に受け止められないで、  
いろいろおも かんが になげん じゆう  
色々思ったり、考えたりするでしょう。人間にはプライドも自由も  
あるので、逆に「そんなことは余計なお世話！私は裸が好きなんだ！」  
と返答されるかもしれません。それでも伝えておきます。  
あなたと同じ立場にいた一人として、その愛に救われた一人として、  
いつか必ず、あなたも分かる時が来ると信じて伝えます。

もし、「裸ですよ！」と言われた事がなかったら、一生気づく事も  
なく、知る事もなく、裸のままどんどん悪い状態に陥り、滅んで  
いってしまう・・・私たちは、死んでおわり！ではないことも知りました。  
見過ごしにするわけにはいかないのです。

聖書には、【裸のままで歩かないように、また、裸の恥を見られ  
ないように、目をさまし着物を身に付けている者は、さいわい  
である。】（聖書ヨハネの黙示録16章15節b）と書かれてあります。

着物とは、本来なら人生のはじまりから身に付けておかなければ  
ならなかった、身に付けておければよかった、何よりも大切な事実。  
いまだに日本人が知らずにきた真実。あるいは誤った知識を  
もって、さも知っているつもりできた真理です。今の日本、日本人は、  
なん ぶぐ す ばだか むぼうび もっと になげん い  
何の武具もない素っ裸で無防備な、最もあわれむべき人間と言え  
るのです。

【わたしたちは、真理に逆らっては何をする力もなく、真理にし  
たがえれば力がある。】（聖書コリント人への第2の手紙13章8節）

真理にしたがえれば力がある！を、まず私たちが実践一大海原に  
誘導され、水をえて、矢を抜いてもらい、裸の恥を認めて、目を  
さまして衣を身に着け、今この冊子を産み出すに至りました。それは、  
確かに日本に生まれ育った私たちにとって、人生において、大革命  
と言うにふさわしい体験の日々でした。今、それを一言で表現  
するなら、「私たちはこの世から救われたのだ・・・」と言えます。

次は、あなたが救われてほしい・・・

この冊子を通して、真の神であるイエス・キリスト（救い主）の  
救いがあなたに臨むことを、ぶどうの木一同、心より祈っています。

コリント人への第一の手紙2章9節～10節a

【しかし、聖書に書いてあるとおおり、「目がまだ見えず、耳がまだ  
聞かず、人の心に思い浮びもしなかったことを、神は、ご自分を  
愛する者たちのために備えられた」のである。そして、それを神は、  
御霊によってわたしたちに啓示して下さったのである。】

にほんじん  
日本人よ…

あなたがたは、あらゆる点において、すこぶる宗教心に富んでおられると、わたしは見ている。実は、わたしが道を通りながら、あなたがたの拝むいろいろなものを、よく見ているうちに、『知られない神に』と刻まれた祭壇もあるのに気がついた。そこで、あなたがたが知らずに拝んでいるものを、いま知らせてあげよう。この世界と、その中にある万物とを造った神は、天地の主であるのだから、手で造った宮などにはお住みにならない。また、何か不足でもしておるかのよう、人の手によって仕えられる必要もない。神は、すべての人々に命と息と万物とを与え、また、ひとりの人から、あらゆる民族を造り出して、地の全面に住ませ、それぞれに時代を区分し、国土の境界を定めて下さったのである。こうして、ひとびとが熱心に追い求めて捜しさえすれば、神を見いだせるようにして下さった。事実、神はわれわれひとりびとりから遠く離れておいでになるのではない。われわれは神のうちに生き、動き、存在しているからである。

しとぎょうでん しょう せつ せつ  
(使徒行伝 17章 2節 b ~ 28節 a)

みな  
皆さんは、聖書を読まれたことがありますか？  
せいしよ いま にほん せかい げんじょう よ お もんだい  
聖書には、今の日本、世界の現状、この世で起こりうる問題の  
かいとう すべ か  
解答が、全て書かれています。さらには、これから先に起こる事も  
よ げん  
預言されています。  
せいしよ よ せいかつ じんせい いしづえ にんげん  
聖書を読んで生活（人生）の礎としている人間（クリスチャン）  
には、<sup>そうていがい</sup>“想定外”のことは一つもない…<sup>なに お</sup>何が起きても“<sup>そうていない</sup>想定内”の  
こととして受け入れながら歩むことができます。

かみ  
神はおっしゃっています。

【わたしの民は知識がないために滅ぼされる。】(ホセア書 4章 6節 a)と。

かみ ぜんじんるい  
<神から全人類へ…>

しりよ もの しりよ  
【「思慮のない者たちよ、あなたがたは、いつまで思慮のないことを  
この 好むのか。あざける者は、いつまで、あざけりを楽しみ、愚かな者は、  
いつまで、知識を憎むのか。  
わたしの戒めに心をとめよ、見よ、わたしは自分の思いを、あなたがたに  
つ 告げ、わたしの言葉を、あなたがたに知らせる。わたしは  
よ 呼んだが、あなたがたは聞くことを拒み、手を伸べたが、顧みる  
もの 者はなく、かえって、あなたがたはわたしのすべての勧めを捨て、  
わたしの戒めを受けなかったの、わたしもまた、あなたがたが災に  
あう時に、笑い、あなたがたが恐慌にあう時、あざけるであろう。  
これは恐慌が、あらしのようにあなたがたに臨み、災が、つむじ風  
のように臨み、悩みと悲しみとが、あなたがたに臨む時である。  
その時、彼らはわたしを呼ぶであろう、しかし、わたしは答えない。】





## <【カルト】からの解放>

皆さんは、【カルト】と聞いたら何を思い浮かべますか？  
世の中では一般的に、占い、魔術、降霊術、宗教とその教えなどに何らかの形でかかわりを持つこと、または、実行することをオカルチズム（神秘術）、【カルト】と呼んでいます。聖書では、このような行為をしている者を無条件で罪に定めています。これらに関わっていないからと言って安心してはいけません。先に述べたように、神より自分の方が偉いと思うその高ぶりは、“偽の神を真の神と違って偶像礼拝してきた”という、人間の内にいるカルト心から溢れ出てくるのです。

神の目から見た【カルト】とは、神の御子イエス・キリスト以外のものや人を、目に見える神の形につくりあげて偶像とし、それに拝み仕えることを言います。また、心の内で頼りにする、なぐさめにすることを言います。  
神は、イエス様によらなければ天国には行けない、イエス様だけが真の神であるとおっしゃっています。

ヨハネによる福音書 14章6節

【イエスは彼に言われた、「わたしは道であり、真理であり、命である。だれでもわたしによらないでは、父（神）のみもとに行くことはできない。】

使徒行伝 4章12節

【この人（イエス・キリスト）による以外に救はない。わたしたちを

救いうる名は、これを別にしては、天下のだれにも与えられていないからである。】

テモテへの第1の手紙 2章4節～6節

【神は、すべての人が救われて、真理を悟るに至ることを望んでおられる。神は唯一であり、神と人との間の仲保者もただひとりであって、それは人なるキリスト・イエスである。彼は、すべての人のあがないとしてご自身をささげられたが、それは、定められた時（約2000年前）になされたあかしにほかならない。】

それなのに人間は、自分の心のおもむくまま、好き勝手に偽の神々を偶像礼拝（カルト＝宗教）してきました。

皆さんは、寺、仏像、仏壇、位牌、神社、神棚、自然界にやどるやおよろず、かみがみ、はか、いこつ、じぞう、まも、えと、八百万の神々、お墓、遺骨、地蔵、お守り、かえる・ふくろう・干支（招福・縁起物といわれている物）の置物や飾り、お札、おみくじ、数珠、パワーストーン（今やペンダント、ブレスレットにアクセサリー化している）、パワースポット（土地）、新興宗教独自の飾りと教祖の写真、絵など、“ここに神（先祖）がいる”、“ここに霊がやどっている”と思うことで神を見出し出していませんか？また、お宮参り、七五三、端午の節句、ひなまつりなどの行事を通して、各地方のまつりなどの場で、子供の成長を祈願していませんか？ヨガや武道の類（空手道、合気道、柔道、剣道など）も、【カルト】行為になります。

偶像礼拝や【カルト】行為は、私たちに自覚症状がないほどまでに

しんとう にほんじん あ まえ ふん か でんとう  
浸透しています。日本人には、もはや当たり前前の文化、伝統、いわゆる“日本・日本人の心”というものです。

とく にほん てんのうせい てんのう にほんこく しょうちょう  
(特に日本には、天皇制があり、天皇を日本国の象徴としています。天皇=神と  
きょういく てんのう くに いのち ぎさ ひとびと  
いう教育により、天皇のために、お国のために命を捧げた人々がどれだけいた  
てんのうせい いま こうけいしゃ  
でしょうか?そんな天皇制も、今や後継者がおらず(男子が生れず)どのように  
そんぞく しゃかいもんだい かみ にんげんひとりひとり びょうどう  
存続させていくのか社会問題になっています。神は、人間一人一人を平等に  
けつ ひとりにんげん しょうちょう あが  
つくられました。決して一人の人間が象徴として崇められることをお許しになり  
かみ いほん にほんじん ころこ か  
ません。神の意に反した“日本人の心”が変わること…それにより、皇族の  
みな まこと かみ しめくふく じんせい あゆ  
皆さんにも真の神に祝福される人生を歩んでいただきたいと切に願います。)

かみ しん い むしんろんしゃ じぶん かみ  
また、神など信じないと言う無神論者は、ただ自分が“神”になって  
いるだけの自分偶像礼拝です。

うらな ふうすい じぶん なや かいけつ おも ひと さま  
占いや風水で、自分の悩みが解決できると思っている人も、イエス様  
いがい たよ けつ か こた ぐうぞうれいはい  
以外のものに頼って、その結果、またはその答えを偶像礼拝している  
ので、【カルト】です。よく考えてみて下さい。占う人(占い師、霊媒師)、  
ふうすいし か こた さまざま こんきよ  
風水師が変われば答えは様々であり、なんの根拠もないものです。

いっばんてき きょう  
そして、一般的にはキリスト教としてひとくりにされてしまっ  
ていますが、イエス様の母として用いられた人間マリアを神格化して  
いる<カトリック>は、マリア偶像礼拝、またバチカン・ローマ  
ほうおうぐうぞうれいはい きょうかい けんぞうぶつ ぐうぞうれいはい  
法王偶像礼拝です。また、教会を建造物として偶像礼拝して  
います。日本に たら じんじゃ おな にほん  
てら じんじゃ おな にほん  
日本の寺、神社と同じです。日本には、このカトリックの  
おし さき つた にほん にほんじん しゅうきょうしん ぐうぞうれいはい はい  
教えが先に伝わり、日本の、日本人の宗教心(偶像礼拝)に入り  
こ  
込みやすかったがために根付いてしまったことが、後に伝えられた  
プロテスタントの教え、唯一の神の御子イエス・キリストにストレート  
に目を向けさせない大障害(サタンの策略)となっています。

たとえ、イエス様を信じているというクリスチャン<プロテスタント>

じゅうじ か いえ  
であっても、十字架のペンダントをお守りがわりにしたり、家に  
さま え かざ さま  
イエス様の絵を飾ることによって“そこにイエス様がいる”と  
かん おも ぶつだん せんぞ  
感じるができると思っているのであれば、仏壇に先祖がいると  
おも おな ぐうぞうれいはい  
思うのと同じ偶像礼拝にすぎません。

じぶん す ぼくし えら おし き ぼくし いぞん  
そして、自分の好きな牧師を選んで教えを聞いたり、牧師に依存  
ひとり しんこう た  
して一人で信仰に立つことができないクリスチャンは、土台が  
さま ぼくし ぐうぞうれいはい  
イエス様ではなく牧師を偶像礼拝しています。

ぎやく きょう じぶん ぼくし せんせい  
逆に、「今日のメッセージは自分のためにならなかった。牧師先生  
き こた じぶん かいけつ どだい  
に聞いても答えはなさそうだから、自分なりに解決しよう。」と、土台  
ひとり はんだん かいしゃく  
があやふやで、一人よがりの判断や解釈をしているのであれば、  
じぶんりゅうしゅうきょう つく あ  
自分流の宗教(カルト)を作り上げていることになります。

ふくいんしょ しょう せつ せつ  
マタイによる福音書7章21節～23節

【わたし(イエス様)にむかって『主よ、主よ』と言う者が、みな  
てんごく さま しゅ しゅ いもの  
天国にはいるのではなく、ただ、天にいますわが父の御旨を行う  
てん ちち みむね おこな  
もの  
者だけが、はいるのである。その日には、多くの者が、わたしに  
ひ おおもの  
むかって『主よ、主よ、わたしたちはあなたの名によって預言  
しゅ しゅ な よげん  
したではありませんか。また、あなたの名によって悪霊を追い出し、  
な あくれい おだ  
あなたの名によって多くの力あるわざを行ったではありませんか』  
な おお ちから おこな  
と言うであろう。そのとき、わたしは彼らにはっきり、こう言おう、  
い  
『あなたがたを全く知らない。不法を働く者どもよ、行ってしまえ。』】

ふくいんしょ しょう せつ せつ  
マタイによる福音書15章8節～9節

【『この民は、口さきではわたしを敬うが、その心はわたしから遠く  
たみ くち うやま ころこ とお  
はな 離れている。人間のいましめを教として教え、無意味にわたしを  
にんげん おしえ おし む い み  
おが  
拝んでいる。』】



このように、人間は高ぶって自分の判断でイエス様以外のものや人、あるいは自分自身を神にして生きることを選んできたのですから、神の怒りにふれるのは当然なのです。

そして、【カルト】にとらわれている人々は、自身がそれによって  
圧迫と束縛を受けていることに気づいているのでしょうか？  
例えば、以下の症状に苦しんでいませんか？

うつ病、冷淡、無責任、突拍子もない行動、妄想、自己の世界への陶醉、特定のものや人への執着心（アイドルの追っかけ、○○オタク）、突然の眠気、押さえがたい情欲、拒食・過食症、偏食（好き嫌い、すべてにタバスコや辛子をかけるなど）、性的倒錯（同性愛、男装、女装、おねえ系）、性同一性障害（性転換）、麻薬・アルコール・ニコチンによる中毒症状、慢性的恐怖や不安、神経過敏、ひどく神経質な行動、強迫観念、力量不足感、自己暗示、自己憐憫、注目を浴びることへの異常な執着や異常な饒舌（特に芸能関係者に多い）、極端に消極的な性格、抑えがたい衝動（うそ、盗み、ギャンブル）、自己破壊的思い（リストカット、刺青などの自虐行為）、騒がしさ、独語癖（独り言を言う）、排他性、人を避ける（ひきこもり）、認知症（コミュニケーションができなくなる）、片づけができない・汚れに気づかない・汚れることが平気になっていく（ごみ屋敷）、ペットへの溺愛と異常な扱い方（人間同様に）など、“現代病”や“社会現象”にもつながるようなあらわれはないですか？

また、不機嫌になったり、乱れた服装（露出の多い服、ドクロの

絵柄、全身黒くめ）、異常にぎらぎらと光る目や、邪悪あるいは挑戦的な顔つき（喧嘩、いじめにつながる）になっていませんか？

昔から、聖書のみことばに反する独自の宗教心、キリストや聖霊を受け入れたくない思い、イエス・キリストの血に対する嫌悪感、神への冒瀆的思いを持っていますか？

クリスチャンと名乗っていても、目に見えない霊的なことや聖書のみことば、祈りに対する無関心、慢性的な疑い（不信仰）、信仰の実践が困難ではないですか？祈っても治療効果の現れない慢性的な身体の不調（原因不明の病、例えば更年期障害）や、深刻な結婚問題、親子問題、各家庭内の争い、各教会内の争いや不調和はありませんか？

周りにこのような人たちがあふれていませんか？日々、次々と新たに耳にする“現代病”、“社会現象”とは何でしょう？これらこそまさに、【カルト】が原因で起こる障害なのです！  
これらのものは、真の神からはきません！すべて、偽の神々を信じた結果、起こるものです。また、真の神がイエス様であることを知っていても、真理（聖書）に忠実に従ってこなかったがために、いつの間にかカルトに陥ってしまっていたクリスチャンも、真理を知らないこの世の人と同じ結果を招くことになるのです。

コリント人への第2の手紙13章8節

【わたしたちは、真理（イエス様）に逆らっては何をする力もなく、真理にしたがえば力がある。】

かみ いか さん よんだい およ  
＜神の怒りは三、四代に及ぶ＞

しんめいき しょう せつ せつ  
申命記5章7節～10節

【あなたはわたしのほかに何ものをも神としてはならない。  
あなたは自分のために刻んだ像を造ってはならない。上は天にあるもの、下は地にあるもの、また地の下の水の中にあるものの、どのような形をも造ってはならない。それを拝んではならない。またそれに仕えてはならない。あなたの神、主であるわたしは、ねたむ神であるから、わたしを憎むものには、父の罪を子に報いて三、四代に及ぼし、わたしを愛し、わたしの戒めを守る者には恵みを施して千代に至るであろう。】

かみ あい にんげん じしん かんしゃ わす たか きざ  
神は、愛してつくった人間がご自身への感謝を忘れて高ぶり、刻んだ  
ぐうぞう つか おが  
偶像をつくってそれに仕え、拝んでいることをねたまれました。  
そして、その報いを三、四代に及ぼすとおっしゃっています。  
たといまい ほんにん せんぞ あいだ しんこうしゅうきょうしん どあ  
たとえ、今生きている本人と、先祖との間に信仰（宗教心）の度合い  
のちが ちが つみ おも か かみめ  
の違いがあったとしても、その罪の重さは変わりません。神が目を  
む せんぞ だいだい みやくみやく う つ まこと かみ  
向けておられるのは、先祖代々、脈々と受け継がれている真の神  
たい うらぎ ち  
に対する裏切りの「血」なのです！

ひがしに ほんだいしんさい げんいん  
＜東日本大震災の原因＞

さん よんだい およ つみ むく もっと わ  
三、四代に及ぶ罪の報いが最も分かりやすくあらわれたのが、

2011年3月11日に起きた東北地方太平洋沖地震でした。

こんかい さいがい たい せいしょ つぎ よげん  
今回の災害に対して、聖書に次のように預言されていました。

マタイによる福音書24章15節～21節

【預言者ダニエルによって言われた荒す憎むべき者が、聖なる場所に立つのを見たならば（読者よ、悟れ）、そのとき、ユダヤにいる人々は山へ逃げよ。屋上にいる者は、家からものを取り出そうとして下におりるな。畑にいる者は、上着を取りにあとへもどるな。その日には、身重の女と乳飲み子をもつ女とは、不幸である。あなたがたの逃げるのが、冬または安息日にならないように祈れ。そのときには、世の初めから現在に至るまで、かつてなく今後もないような大きな患難が起るからである。】

しょ しょう せつ せつ  
エレミヤ書9章20節～22節

おんな しゅ ことば き みみ くち ことば  
【女たちよ、主の言葉を聞け。あなたがたの耳に、その口の言葉をいれよ。あなたがたの娘に悲しみの歌を教え、おのおのその隣りに哀悼の歌を教えよ。死がわれわれの窓に上って来、われわれの邸宅の中にはいり、ちまたにいる子どもらを絶やし、広場にいらる若い人たちを殺そうとしているからだ。あなたはこう言いなさい、「主は言われる、『人の死体が糞土のように、野に倒れているようになり、また刈入れする人のうしろに残って、だれも集めることをしない束のようになる』。】

あら にく もの つなみ  
「荒す憎むべき者」とは津波のことです。

3月11日に起きたことは、決して“想定外”ではありませんでした。ただ、真の神に従ってこなかった人間に、それを知る知識がなかっただけなのです。「どうしてこんなことになるの?」「何も悪いことなどしていないのになぜ?」と、誰もが聞いたかった答えが、聖書にははっきりと書かれてあります。福島の人々が放射能の被害にあい、先祖も知らない地に行かなければならなくなることも、聖書はすでに預言していました。

【『主がわれわれにこの大きな災を宣告されるのはどうしてですか。われわれにどんな悪い所があるのですか。われわれの神、主にそむいて、われわれが犯した罪とはなんですか』  
……………中略……………

『主は仰せられる、それはあなたがたの先祖がわたし（真の神）を捨てて他の神々に従い、これに仕え、これを拝し、またわたしを捨て、わたしの律法（聖書）を守らなかったからである。あなたがたは、あなたがたの先祖よりも、いっそう悪いことをした。見よ、あなたがたはおの自分の悪い強情な心に従い、わたしに聞き従うことはしない。それゆえ、わたしはあなたがたをこの地より追い出し、あなたがたも、あなたがたの先祖も知らない地に行かせる。その所であなたがたは昼夜、ほかの神々に仕えるようになる。これはわたしがあなたがたにあわれみを示さないからである』と。】  
(エレミヤ書16章10節～13節より)

神はご自身のみことばをそのまま実行されているにすぎません。神は冒頭のみことばで約束されています、「わたしに聞き従う者

は、災いに会う恐れもなく安全だ」と……。しかし、聞き従わなかった者、イエス様以外のものや人を偶像礼拝してきた人間に對しては、容赦なく報復を開始されたのです。

### エレミヤ書25章4節～7節

【主はたゆまず、そのしもべである預言者を、あなたがたにつかわされたが、あなたがたは聞かずまた耳を傾けて聞こうともしなかった。彼らは言った、『あなたがたはおのおの今その悪の道と悪い行いを捨てなさい。そうすれば主が昔からあなたがたと先祖たちとに与えられた地に永遠に住むことができる。あなたがたは、ほかの神に従って、それに仕え、それを拝んではならない。あなたがたの手で作ったものをもって、わたしを怒らせてはならない。このようなことをしないなら、わたしはあなたがたをそこなうことはない』と。しかしあなたがたはわたしに聞き従わず、あなたがたの手で作った物をもって、わたしを怒らせて自ら害を招いたと、主は言われる。】

神は、刻んだ像を造ってはならない、それを拝んではならないとおっしゃっています。  
今もなお、偶像を拝み、仏教や神道のやり方で、あるいは自分のやり方で供養を続けている人々がたくさんいらっしゃいますが、日本人が祈り、怒りを鎮めなければならない相手、悔い改めなければならぬ相手は、宗教やカルトによって生み出された偽の神々ではありません!  
日本人は、真の神・イエス様に悔い改めなければならないのです!!

しとぎょうでん しょう せつ せつ  
使徒行伝 17章 29節～30節

【このように、われわれは神の子孫なのであるから、神たる者を、人間の技巧や空想で金や銀や石などに彫り付けたものと同じと、見なすべきではない。神は、このような無知の時代を、これまでは見過ごしにされていたが、今はどこにおる人でも、みな悔い改めなければならないことを命じておられる。】

こんかい とうほく にほんじん つみ く あらた  
今回は東北でした・・・しかし、日本人が罪を悔い改めないかぎり、神の報復は続きます。それがどこに行われるのか、どんななさりをされるのか、私たち人間には知る由もありません。それが神が支配されている自然界なのです。

しよ しょう せつ せつ  
エレミヤ書 4章 19節～28節

【ああ、わがはらわたよ、わがはらわたよ、わたしは苦しみにもたえる。ああ、わがが心臓の壁よ、わたしの心臓は、はげしく鼓動する。わたしは沈黙を守ることができない、ラッパの声と、戦いの叫びを聞くからである。破壊に次ぐに破壊があり、全地は荒され、わたしの天幕はにわかには破られ、わたしの幕はたちまち破られた。いつまでわたしは旗を見、またラッパの声を聞かなければならないのか。「わたしの民は愚かであって、わたしを知らない。彼らは愚鈍な子どもらで、悟ることがない。彼らは悪を行うのにさといけれども、善を行うことを知らない」。

わたしは地を見たが、それは形がなく、またむなしかつた。天をあおいだが、そこには光がなかった。わたしは山を見たが、みなふる震え、もろもろの丘は動いていた。わたしは見たが、人はひとりもおらず、空の鳥はみな飛び去っていた。わたしは見たが、豊かな

ち あ ち はげ いか  
地は荒地となり、そのすべての町は、主の前に、その激しい怒りの前に、破壊されていた。それは主がこう言われたからだ、「全地は荒地となる。しかしわたしはことごとくはこれを滅ぼさない。このために地は悲しみ、上なる天は暗くなる。わたしがすでにこれを言い、これを定めたからだ。わたしは悔いない、またそれをする事をやめない。】

しよ しょう せつ せつ  
エレミヤ書 16章 19節～21節

【主、わが力、わが城、悩みの時の、のがれ場よ、万国の民は地の果からあなたのもとにきて申します、「われわれの先祖が受け嗣いだのは、ただ偽りと、役に立たないつまらない事ばかりです。ひとが自分で神々を造ることができましようか。そういうものは神ではありません。】

「それゆえ、見よ、わたしは彼らに知らせよう。すなわち、この際わたしの力と、わたしの勢いとを知らせよう。彼らはわたしの名が、主であることを知るようになる。】



## <イエス様の血の力>

この三、四代に及ぶと定められている神の報復を断ち切り、許しを得るためには、イエス・キリストを救い主として受け入れ、イエス様が十字架上で流された血によってきよめられるしかありません。

### ヨハネの第1の手紙1章7節～9節

【しかし、神が光の中にありますように、わたしたちも光の中を歩くならば、わたしたちは互に交わりをもち、そして、御子イエスの血が、すべての罪からわたしたちをきよめるのである。もし、罪がないと言うなら、それは自分を欺くことであって、真理はわたしたちのうちにはない。もし、わたしたちが自分の罪を告白するならば、神は真実で正しいかたであるから、その罪をゆるし、すべての不義からわたしたちをきよめて下さる。】

### エペソ人への手紙1章7節

【わたしたちは、御子にあって、神の豊かな恵みのゆえに、その血によるあがない、すなわち、罪過のゆるしを受けたのである。】

イエス様は、十字架にかかり、血を流すことによって、神と私たちに人間を和解させていただきました。今後、すべての偶像を捨て去り、イエス様を救い主として受け入れ信じる者は、決して神の怒りによって滅びることがないように、神と私たち人間の間、仲保者となり、契約を結んでくださったのです。【血を流すことなしには、罪のゆるしはあり得ない。】(ヘブル人への手紙9章22節b)

と聖書に書かれてある通り、先祖代々、脈々と受け継がれてきた真の神に対しての裏切りの血は、純粋な汚れのないイエス様の血でしか洗いきよめることができません。イエス様は、私たち人間の命(血)のために、ご自身の命(血)を捧げられました。なぜなら、命は血の中にあるからです。(これが、新約聖書に書かれていることです。旧約聖書における「過越」に由来します。)

### レビ記17章11節

【肉の命は血にあるからである。あなたがたの魂のために祭壇の上で、あがないをするため、わたしはこれをあなたがたに与えた。血は命であるゆえに、あがなうことができるからである。】

### コロサイ人への手紙1章19節～20節

【神は、御旨によって、御子のうちにすべての満ちみちた徳を宿らせ、そして、その十字架の血によって平和をつくり、万物、すなわち、地にあるもの、天にあるものを、ことごとく、彼によってご自分と和解させて下さったのである。】

### テモテへの第1の手紙2章5節

【神は唯一であり、神と人との間の仲保者もただひとりであって、それは人なるキリスト・イエスである。】

そして、十字架上で流された血は、私たち人間が先祖代々犯してきたすべての罪をきよめるだけではなく、すべての災害と病気から守ってくれる力あるものです。震災によって、放射能の害で



苦しんでおられる方がたくさんいらっしゃいますが、イエス様の血は、人間が太刀打ちできない放射能からも守ってくださいます。

### エレミヤ書 33章 6節

【見よ、わたしは健康と、いやしとを、ここにもたらし、人々をいやし、豊かな繁栄と安全とを彼らに示す。】

### マルコによる福音書 16章 17節～18節

【信じる者には、このようなしるしが伴う。すなわち、彼らはわたしの名で悪霊を追い出し、新しい言葉を語り、へびをつかむであろう。また、毒を飲んでも、決して害を受けない。病人に手をおけば、いやされる。】

### ルカによる福音書 10章 19節

【わたしはあなたがたに、へびやさそりを踏みつけ、敵のあらゆる力に打ち勝つ権威を授けた。だから、あなたがたに害をおよぼす者はまったく無いであろう。】

### イザヤ書 53章 5節 b

【彼はみずから懲らしめをうけて、われわれに平安を与え、その打たれた傷によって、われわれはいやされたのだ。】

### ヨハネによる福音書 16章 33節

【これらのことをあなたがたに話したのは、わたしにあって平安を得るためである。あなたがたは、この世ではなやみがある。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている。】

### ＜神の愛を見えなくさせる人間の情＞

聖書には、天国に入れる人数が書かれています。

### ヨハネの黙示録 14章 1節～3節

【なお、わたしが見ていると、見よ、小羊（イエス・キリスト）がシオンの山に立っていた。また、十四万四千の一人が小羊と共におり、その額に小羊の名とその父の名（神・天の父）とが書かれていた。またわたしは、大水のとどろきのような、激しい雷鳴のような声が、天から出るのを聞いた。わたしの聞いたその声は、琴をひく人が立琴をひく音のようでもあった。彼らは、御座の前、四つの生き物と長老たちとの前で、新しい歌を歌った。この歌は、地からあがなわれた十四万四千人のほかに、だれも学ぶことができなかった。】

14万4千人・・・これが神の目から見た霊的な数字なのか、それとも実際の数字をあらわすのかは、私たちにはわかりませんが、約70億人の世界人口から見ても、天国に入る門がいかに狭いかはよく分かります。

### マタイによる福音書 7章 13節～14節

【狭い門からはいれ。滅びにいたる門は大きく、その道は広い。そして、そこからは行って行く者が多い。命にいたる門は狭く、その道は細い。そして、それを見いだす者が少ない。】

マタイによる福音書22章14節

【招かれる者は多いが、選ばれる者は少ない。】

では、この14万4千人はどのような人々なのか…聖書にはそのことについてもはっきりと書かれてあります。

ヨハネの黙示録14章4節～5節

【彼らは、女にふれたことのない者である。彼らは、純潔な者である。そして、小羊の行く所へは、どこへでもついて行く。彼らは、神と小羊とにささげられる初穂として、人間の中からあがなわれたものである。彼らの口には偽りがなく、彼らは傷のない者であった。】

この女とは、神の愛よりも、人間愛・人間の情がすばらしいとおしあかしている悪霊です。特に、仏教の国・日本は、この情を頭とさせようとする霊力におおわれています。

故人を忘れない、悲しみを忘れないという精神が仏教制度という土台の中でしっかりと根付いていますし、情の深い人＝人間味のある人は、「善良な人」として称賛されます。

しかし、その人間愛・人間の情は、自分の思い通りにならなかつたり裏切られた途端、態度は一変し、『目には目を、歯には歯を』をしたくなくなります。“私はこの人にこれだけの愛を注いであげた！”と思っている分だけ、反動で恨みと憎しみ、裁きが生まれるのです。本当の愛（神の愛）がなければ、まるでオセロの駒が白（情）から黒（裁き）に変わるほど、人間の愛・情には裏表があります。聖書ではこのような人間を、「偽善者」と呼んでいます。

真のクリスチャンでない限り、この世で生きている限り、必ず心当たりのあることだと思いますが、いかがですか？

エレミヤ書17章9節～10節

【心はよろずの物よりも偽るもので、はなはだしく悪に染まっている。だれがこれを、よく知ることができようか。「主であるわたしは心を探り、思いを試みる。おのおのに、その道にしたがひ、その行いの実によって報いをするためである。】

魂（心・感情）に働きかける人間愛、人間の情を否定するつもりはありませんが、私たち人間には、神というお方を知るために与えられた『霊』があります。人間愛・人間の情は、相手の魂に寄り添うことはできても、相手が求めている真の解決＝霊を立たせる力はありません。人間の『霊』は、自分のことをすべて御存知である神の愛、神の情を求めているのです。人間は当たり前のように、魂対魂で、人間愛・人間の情を頭に生きてきましたが、それによって本当の自分＝『霊』を解放する大事なものが見えなくなるという、サタン（悪霊の親分）の策略にまんまとかかってきました。神はそんな人間に対して怒っておられるのです。

神の愛について、聖書には次のように書かれています。

コリント人への第1の手紙13章4節～8節a

【愛は寛容であり、愛は情深い。また、ねたむことをしない。愛は高ぶらない、誇らない、不作法をしない、自分の利益を求めない、

いらだたない、恨みをいだかない。不義を喜ばないで真理を喜ぶ。  
そして、すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてを  
耐える。愛はいつまでも絶えることがない。】

そして、神の愛の象徴こそ、神が私たち人類の救いのために地上に  
送ってくださった、神の御子イエス・キリストなのです。  
イエス様は、あなた自身のこの世での苦しみ、悩み、痛み、何より  
三、四代に渡る血の中にある呪い崇りを、すべて背負って十字架  
についてくださいました。さらに本来は、私たち人間一人一人が、  
神に対して犯した偶像礼拝と高ぶりの罪のゆえに十字架にかから  
なければならなかったのに、あなたの代わりに十字架にかかり、  
あなたの罪の許しを請け負ってくださいました。

#### イザヤ書53章4節～6節

【まことに彼（イエス・キリスト）はわれわれの病を負い、われ  
われの悲しみをになった。しかるに、われわれは思った、彼は  
打たれ、神にたたかれ、苦しめられたのだ。しかし彼はわれわれの  
とがのために傷つけられ、われわれの不義のために砕かれたのだ。  
彼はみずから懲らしめをうけて、われわれに平安を与え、その打た  
れた傷によって、われわれはいやされたのだ。われわれはみな  
羊のように迷って、おのおの自分の道に向かって行った。主は  
われわれすべての者の不義を、彼の上におかれた。】

私たち人間に分かるように、約2000年前にイエス・キリスト  
を地上に送り、神がご自身の存在をこの世にあらわしてください  
ました。この地上でなされたイエス・キリストの偉大な御業、

神の愛に目を背けて生きている人間は、皆、神に対して罪を犯して  
いるのです。約2000年前の外国の出来事ではなく、地球上の  
全人類、私たち日本人のためにも！なされたことなのです。

#### ヨハネによる福音書3章16節～21節

【神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。  
それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るため  
である。神が御子を世につかわされたのは、世をさばくためでは  
なく、御子によって、この世が救われるためである。彼を信じる  
者は、さばかれぬ。信じない者は、すでにさばかれている。  
神のひとり子の名を信じることをしないからである。そのさばき  
というのは、光がこの世にきたのに、人々はそのおこないが悪い  
ために、光よりもやみの方を愛したことである。悪を行っている  
者はみな光を憎む。そして、そのおこないが明るみに出される  
のを恐れて、光にこようとはしない。しかし、真理を行っている者は  
光に来る。その人のおこないの、神にあってなされたということが、  
明らかにされるためである。】

## ＜情にまかされているクリスチャンへの警告＞

イエス様を受け入れたクリスチャンは、表は神の愛、裏返しても無条件の許しでなければなりません。【きよい人には、すべてのものがきよい。】(テスへの手紙1章15節a)と書かれてある通り、裏表のない人=真理(聖書の言葉)を体験・体得している真のクリスチャンは、どう変わっても清い・聖い白なのです。

情にまかれているは、神の愛に立つどころか、神の愛を体験・体得することさえできません。相手の顔色をうかがい、相手を傷つけないように、機嫌を損ねないように神のみことばを語っては、神の怒りと報復をまねいている人を救うことなどできません。「神は愛」であることばかりを福音し、義理人情にまかれて「神は裁き主」でもあることを伝えずにきたクリスチャンがどれだけいるでしょうか？

### マタイによる福音書23章13節

【偽善な律法学者、パリサイ人たちよ。あなたがたは、わざわいである。あなたがたは、天国を閉ざして人々をはいらせない。自分もはいらぬし、はいろうとする人をはいらせもしない。】

また、キリスト教、仏教、イスラム教が手を取り合って平和を祈る？ような近年の社会現象！そのようなことを神が許されるでしょうか？クリスチャンの内にある偽善の思いが、どれだけ真の神・主イエス様をあざけり、偽の神々に仕える者にもあざけられていることでしょうか。

## 真理は1つだけ！真の神は、イエス・キリストお一人だけです！

情によって真の神も偽の神々も同等においでしている人間(クリスチャン)は、次のみことばに当てはまる者です。キリストの僕ではない、なまぬるいと、はっきり書かれています。

### ガラテヤ人への手紙1章10節

【今わたしは、人に喜ばれようとしているのか、それとも、神に喜ばれようとしているのか。あるいは、人の歓心を買おうと努めているのか。もし、今もなお人の歓心を買おうとしているとすれば、わたしはキリストの僕ではあるまい。】

### ヨハネの黙示録3章15節～16節

【わたしはあなたのわざを知っている。あなたは冷たくもなく、熱くもない。むしろ、冷たいか熱いかであってほしい。このように、熱くもなく、冷たくもなく、なまぬるいので、あなたを口から吐き出そう。】



かみ まも なか はい  
＜神の守りの中に入る＞

わたし たちくぶどうの木＞は、聖書のすべてのみことばを愛し、信じ、  
実践しているクリスチャンとして、神の愛をもって皆さんに伝え  
ます。

つぎ こくはく いの とお まこと かみ さま とき にせ  
次の告白の祈りを通して、真の神・イエス様に、この時まで偽の  
神々を拝み仕えてきたことを悔い改めてください。それは、神の  
側から見れば、たとえどんな理由があつたにせよ、人間の高ぶりの  
罪となるのです。意志を向けて「ごめなんさい」と言うことで、  
あなたが三、四代に渡って受けてきた災い、これから受けるはず  
であった災いから逃れることができ、神の御手の中で守られるで  
しょう。

しよ しょう せつ  
エレミヤ書2章35節

【あなたは言う、『わたしは罪がない。彼の怒りは、決してわたしに  
臨むことがない』と。あなたが『わたしは罪を犯さなかった』と  
言うことによって、わたしはあなたをさばく。】

ふくいんしょ しょう せつ  
マルコによる福音書1章15節

【「時は満ちた、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信ぜよ。」】

ふくいんしょ しょう せつ  
マタイによる福音書11章28節

【すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい。  
あなたがたを休ませてあげよう。】

たす めし せいれい う い しゅ こくはく いの  
イエス・キリストと助け主＝聖霊を受け入れる（主への告白の祈り）

こえ だ よ  
声に出して読んでください。

「愛する天のお父様、イエス様。私がこれまで犯してきたすべての  
罪をお許してください。あなた以外の偽の神々に仕え、偶像礼拝を

してきたこと、それによって神の愛が見えなくなっていたことを  
悔い改めます。イエス様が、私の罪のために十字架にかかって  
死んでくださり、3日目に神が死人の中からイエス様をよみがえ

らせたことを信じます。イエス様、どうぞ私の中に入ってください。

私の全身を、イエス様の血によって清めてください。そして、  
私を災いから守り、これからの人生を平安に送ることができる

ように導いてください。また、私に聖霊と火によってバプテスマ  
(洗礼)を授けてください。私の全身を聖霊で満たしてください。

たった今、聖霊をいただけたと信じます。そして異言（真の神と  
会話できる言葉）もください。いただいたと信じ、舌を動かします。

(ラララララ・・・と声を出して舌を動かしてください。それが、  
あなたの異言です。)

イエス様、ありがとうございます。あなたがおっしゃる通り、私は  
これから聖書のすべてのみことばに従って生き、書かれてある  
しるしと奇跡を行い、異言を語ります。すべての栄光はイエス様に  
帰して、感謝して祈ります。アアメン。」

※「アアメン」とは、“そうなつたと信じます”という意味です。

イエス様を受け入れた皆さんの上に、次のみことばが成就する  
ことを祈っています。



ヨハネによる福音書1章12節～13節

【しかし、彼を受け入れた者、すなわち、その名を信じた人々には、彼は神の子となる力を与えたのである。それらの人は、血すじによらず、肉の欲によらず、また、人の欲にもよらず、ただ神によって生れたのである。】

エレミヤ書29章11節～14節

【主は言われる、わたしがあなたがたに対していただいている計画はわたしが知っている。それは災を与えようというのではなく、平安を与えようとするものであり、あなたがたに将来を与え、希望を与えようとするものである。その時、あなたがたはわたしに呼ばわり、来て、わたしに祈る。わたしはあなたがたの祈を聞く。あなたがたはわたしを尋ね求めて、わたしに会う。もしあなたがたが一心にわたしを尋ね求めるならば、わたしはあなたがたに会うと主は言われる。わたしはあなたがたの繁栄を回復し、あなたがたを万国から、すべてわたしがあなたがたを追いやった所から集め、かつ、わたしがあなたがたを捕われ離れさせたそのもの所に、あなたがたを導き帰ろうと主は言われる。】

エレミヤ書7章23節

【ただわたしはこの戒めを彼らに与えて言った、『わたしの声に聞きしたがいなさい。そうすれば、わたしはあなたがたの神となり、あなたがたはわたしの民となる。わたしがあなたがたに命じるすべての道を歩んで幸を得なさい』と。】

そして、被災地の皆さん、特に福島県の皆さんも希望をもってください！神にはできないことはありません。皆が真の神・イエス様に悔い改め、救い主として受け入れたのであれば、必ず神は被災地、放射能におかされた地を、すみやかにもとの地に戻してくださると聖書で約束してくださっています。そこに必要なのは、真の神・イエス様への信仰（信頼）と、イエス様が十字架上で流された“血の力を行使すること”です！

エレミヤ書33章6節～11節

【見よ、わたしは健康と、いやしとを、ここにもたらして人々をいやし、豊かな繁栄と安全とを彼らに示す。わたしはユダとイスラエル（被災地）を再び栄えさせ、彼らを建てて、もとのようにする。わたしは彼らがわたしに向かって犯した罪のすべてのとがを清め、彼らがわたしに向かって犯した罪と反逆のすべてのとがをゆるす。この町は地のもろもろの民の前に、わたしのために喜びの名となり、ほまれとなり、栄えとなる。彼らはわたしがわたしの民に施すもろもろの恵みのことを聞く。そして、わたしがこの町に施すもろもろの恵みと、もろもろの繁栄のために恐れて身をふるわす。主はこう言われる、あなたがたが、『それは荒れて、人もおらず獣もない』というこの所、すなわち、荒れて、人もおらず住む者もなく、獣もないユダの町とエルサレムのちまたに、再び喜びの声、楽しみ声、花婿の声、花嫁の声、および『万軍の主に感謝せよ、主は恵みふかく、そのいつくしみは、いつまでも絶えることがない』とあって、感謝の供え物を主の宮に携えてくる者の声が聞こえる。それは、わたしがこの地を再び栄えさせて初めのようにするからであると主は言われる。】

＜聖書を信じていない皆さんへ＞

ここまで、聖書に基いてお伝えしてきましたが、聖書そのものを信じていないと言う方もいらっしゃるでしょう。聖書を信じるも信じないも、その人の自由です。神は意志までとはられません。しかし聖書には、次のように書かれていることをお伝えしておきます。

ローマ人への手紙9章15節～18節

【わたしは自分のあわれもうとする者をあわれみ、いつくしもうとする者を、いつくしむ。ゆえに、それは人間の意志や努力によるのではなく、ただ神のあわれみによるのである。聖書はパロにこう言っている、「わたしがあなたを立てたのは、この事のためである。すなわち、あなたによってわたしの力をあらわし、また、わたしの名が全世界に言いひろめられるためである」。だから、神はそのあわれもうと思う者をあわれみ、かたくなにしようと思うものを、かたくなになさるのである。】

神はあわれもうとする者に、ご自身をあらわし、聖書を通して必要の一切を満たしていただきます。そして、かたくなにしようとするものは、かたくなになさる…あなたは、神によってかたくなにされた側の人間ですか?? 神の報復は、神の声（聖書）に聞き従わない者の上を下るでしょう。

ヨハネによる福音書3章36節

【御子を信じる者は、永遠の命をもつ。御子に従わない者は、命に

あずかることがないばかりか、神の怒りがその上にとどまるのである。】

テサロニケ人への第2の手紙1章7節～9節

【それは、主イエスが炎の中で力ある天使たちを率いて天から現れる時に実現する。その時、主は神を認めない者たちや、わたしたちの主イエスの福音に聞き従わない者たちに報復し、そして、彼らは主のみ顔とその力の栄光から退けられて、永遠の滅びに至る刑罰を受けるであろう。】

ヨブ記4章20節～21節

【彼らは朝から夕までの間に打ち砕かれ、顧みる者もなく、永遠に滅びる。もしその天幕の綱が彼らのうちに取り去られるなら、ついに悟ることもなく、死にうせるではないか。】

イザヤ書66章2節

【主は言われる、「わが手はすべてこれらの物を造った。これらの物はことごとくわたしのものである。しかし、わたしが顧みる人はこれである。すなわち、へりくだって心悔い、わが言葉に恐れおののく者である。】

## ＜世の終わりが近い＞

聖書の中で、イエス様が終わりの日の前兆について弟子に語っておられる箇所があります。

マタイによる福音書24章3節～14節

【またオリブ山で（イエス様が）すわっておられると、弟子たちが、ひそかにみもとにきて言った、「どうぞお話しください。いつ、そんなことが起るのでしょうか。あなたがまたおいでになる時や、世の終わりには、どんな前兆がありますか」。

そこでイエスは答えて言われた、「人に惑わされないように気をつけなさい。多くの者がわたしの名を名のつて現れ、自分がキリスト（救い主）だと言って、多くの人を惑わすであろう。また、戦争と戦争のうわさを聞くであろう。注意していなさい、あわててはいけない。それは起らねばならないが、まだ終りではない。民は民に、国は国に敵対して立ち上がるであろう。またあちこちに、ききんが起り、また地震があるであろう。しかし、すべてこれらは産みの苦しみの初めである。そのとき人々は、あなたがたを苦しみにあわせ、また殺すであろう。またあなたがたは、わたしの名のゆえにすべての民に憎まれるであろう。そのとき、多くの人がつまずき、また互に裏切り、憎み合うであろう。また多くのにせ預言者が起って、多くの人を惑わすであろう。また不法がはびこるので、多くの人々の愛が冷えるであろう。しかし、最後まで耐え忍ぶ者は救われる。そしてこの御国の福音は、すべての民に対してあかしをするために、全世界に宣べ伝えられるであろう。そしてそれから最後が来るのである。】

まさに今の時代に起きていることだと思いませんか？神は、イエス・キリストの再臨をもって、この地上を終わらせようとしておられます。冒頭でもお伝えした通り、聖書は作り話ではなく、すべて神が愛する人間に与えたメッセージであり、聖書に書かれてあることは確実に実行されていきます。

世の終わりの前兆を迎えている今、私たち＜ぶどうの木＞は、日本人が知識がないために滅ぼされることのないように！と祈ります。そして、この日本が聖書（＝真の神）を知る知識を得て、神に喜ばれ、祝福を受けるにふさわしいクリスチャンの国に生まれ変わったことを感謝します。

<最後に…>

以下の宗教、カルト教団に属している人間は、神の怒り、報復を受けます！

仏教、神道、イスラム教、天理教、創価学会、生長の家、真光教、真如苑、幸福の科学をはじめ、新興宗教の数々は全て違います。長年に渡り、家族（一族）で信仰してきた歴史には、何の力もありませんでした。たとえ、あなたの心の癒し・なぐさめになっていたとしても、真の問題解決、真の救い、神の“力”はないのです。また、教祖（人間）が存在する宗教、教団や、その教祖が死者との対話を行っていたり（カルト）、祈りを聞いてもらうためや、階級をあげるためにお金が必要であったり（商売）、売名行為をめぐらしているもの、独自の聖書や本＝独自の教えをつくっている宗教、教団は、真の神に忌み嫌われており、そこを支配しているのはサタン（悪霊）でしかありません！

コリント人への第2の手紙11章13節～15節

【こういう人々には使徒、人をだます働き人であって、キリストの使徒に擬装しているにすぎないからである。しかし、驚くには及ばない。サタンも光の天使に擬装するのだから。だから、たといサタンの手下どもが、義の奉仕者のように擬装したとしても、不思議ではない。彼らの最期は、そのしわざに合ったものとなる。】

使徒行伝4章12節

【この人（イエス・キリスト）による以外に救はない。わたしたちを

救う名は、これを別にしては、天下のだれにも与えられていないからである。】

そして、エホバの証人、統一教会、モルモン教はクリスチャン（キリスト教）と名乗っていますが、全くの偽物、異端です。サタンがキリスト教界に混乱を来たすために、つくりあげた【カルト】です。

真の神・イエス様を信じるクリスチャンは、すべての栄光をイエス様に帰します。決して、神は一人の人間（教祖、牧師などの指導者）が注目を浴びたり、高ぶったり、周りがその人に栄光を帰すようなことはさせません。先に述べたように、神は“ねたむ神”だからです。

エレミヤ書9章23節～24節

【主はこう言われる、「知恵ある人はその知恵を誇ってはならない。力ある人はその力を誇ってはならない。富める者はその富を誇ってはならない。誇る者はこれを誇とせよ。すなわち、さとくあって、わたしを知っていること、わたしが主であって、地に、いつくしみと公平と正義を行って行っている者であることを知ることがそれである。わたしはこれらの事を喜ぶと、主は言われる。】

マタイによる福音書23章11節～12節

【そこで、あなたがたのうちでいちばん偉い者は、仕える人でなければならない。だれでも自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるであろう。】



神はいつも、あなたの心がどこにあるのかを見ておられます。  
神のひとり子であり、全人類のために実際に十字架についてくださったイエス様だけが、栄光を受けることを神に許されています。それに背いてこれらの宗教をつくりあげ、自分が神になって栄光を受けている者、さらには、神へのとりつぎ、とりなし、仏の為と称し、金儲け（商売）をしている者、たとえそれらの者に騙されているだけだとしても、偽の神々を信じている人々への神の報復はどれほどのものでしょうか… 神を恐れ、今すぐ悔い改めて真の神に立ち返ることを警告します！

### カトリックの皆さんへ…

聖書は、マリア（様）を証しているものではなく、十字架にかかって尊い血を流してくださったイエス様を証しているものです。それ以上でもそれ以下でもありません。聖書を誇大解釈（妄想・占いの霊）して、人間マリアを神格化して偶像礼拝していても、神の“力”はありません。マリアは私たちと同じ人間であり、カトリック教会のつくりあげた“聖人”も、どこまでも人間にすぎず、イエス様と同等に位置づけられるものではありません。イエス様お一人だけが真の神として栄光を受けるべきお方です。聖霊もイエス様のみ栄光を得させられます。（ヨハネによる福音書16章13節～15節）

カトリックの皆さんがその真理に立ち返り、悪霊の存在と、その策略・聖霊への真の知識・イエス様の血の力を知って、それを行使する神の“力”をもった真のクリスチャンになられることを切に祈ります。そして、肉において一心に神に仕えてきたカトリックの

皆さんの信仰が、さらに聖霊によって、霊においても力が増し加わり、私たちと1つになれたことを感謝します。

※コロサイ人への手紙2章、テモテへの第1の手紙4章を参照してください。

### プロテスタントの皆さんへ…

【悪い実のなる良い木はないし、また良い実のなる悪い木もない。木はそれぞれ、その実でわかる。】（ルカによる福音書6章43節～44節 a）と聖書に書かれてある通り、真のクリスチャンには、良い実=真の神・イエス様の力と、生きておられる神と共にあることを証明する『証』があります。もし、それが与えられていないのであれば、自称クリスチャンにすぎず、神の守りの中にはいません。【神の国は言葉ではなく、力である。】（コリント人への第1の手紙4章20節）だからです。そんなあなたに、神は何度も間違いを示し、語りかけておられるはずで、神はあわれみ深い方です。あなたは、その声を聞くことができているか？ 間違いを悟り、悔い改めてきましたか？ 気づかないまま歩いても、忠告を無視してひとりよがりでも、行き着く先は地獄です。

### 使徒行伝28章26節～29節

【『この民に行って言え、あなたがたは聞くには聞くが、決して悟らない。見るには見るが、決して認めない。この民の心は鈍くなり、その耳は聞えにくく、その目は閉じている。それは、彼らが目で見ず、耳で聞かず、心で悟らず、悔い改めていやされることがない





【主よ、栄光をわれらにではなく、われらにではなく、あなたの  
 いつくしみと、まこととのゆえに、ただ、み名にのみ帰してくだ  
 さい。なにゆえ、もろもろの国民は言うのでしよう、「彼らの神は  
 どこにいるのか」と。

われらの神は天にいらせられる。神はみこころにかなうすべての  
 事を行われる。彼らの偶像はしろがねと、こがねで、人の手のわざ  
 である。それは口があっても語るができない。目があっても  
 見ることができない。耳があっても聞くができない。鼻があつても  
 かがぐことができない。手があつても取るができない。足があつても  
 歩くことができない。また、のどから声を出すことも  
 できない。これを造る者と、これに信頼する者とはみな、これと  
 等しい者になる。

イスラエルよ、主に信頼せよ。主は彼らの助け、また彼らの盾で  
 ある。アロンの家よ、主に信頼せよ。主は彼らの助け、また彼ら  
 の盾である。主を恐れる者よ、主に信頼せよ。主は彼らの助け、  
 また彼らの盾である。主はわれらをみこころにとめられた。主は  
 われらを恵み、イスラエルの家を恵み、アロンの家を恵み、また、  
 小さい者も、大なる者も、主を恐れる者を恵まれる。

どうか、主があなたがたを増し加え、あなたがたと、あなたがたの  
 子孫とを増し加えられるように。天地を造られた主によってあなた  
 がたが恵まれるように。天は主の天である。しかし地は人の子ら  
 に与えられた。死んだ者も、音なき所に下る者も、主をほめたた  
 えることはない。しかし、われらは今より、とこしえに至るまで、  
 主をほめまつるであらう。主をほめたたえよ。】

私たち<ぶどうの木>は、静岡県浜松市で、聖書エゼキエル書  
 34章の預言により集められ、聖書のすべての言葉を愛し、信じ、  
 実践しているクリスチャンの集まりです。

<ぶどうの木>は、一人の婦人が行っていた家庭での聖書勉強会  
 から始まりました。当時はまだ無名の、少人数の小さな集まり  
 でした。しかし、イエス様はおっしゃいました、「小さな始まりを  
 軽んじるな」と…。やがて、人数が増え、家庭集会では納まらな  
 くなった2007年9月2日、公共の施設を借りるために、聖書  
 ヨハネによる福音書15章より「ぶどうの木」という名前をいた  
 だき、新たな場で聖書勉強会を始めることとなりました。その中で、  
 冒頭でお伝えしたみことば【しかし、聖書に書いてあるとおおり、  
 「目がまだ見えず、耳がまだ聞かず、人の心に思い浮びもしなかつた  
 ことを、神は、ご自分を愛する者たちのために備えられた」ので  
 ある。そして、それを神は、御霊によってわたしたちに啓示して  
 くださったのである。】(コリント人への第一の手紙2章9節～10節a) という  
 通り、今、日本人に必要なことの一切を、『神』は私たちに「啓示」  
 してくださったのです。そしてその「啓示」が、以下の冊子①～④  
 にすでに書き留められています。

- ①「日本人はだまされている」
- ②「未来へのプレゼント」(日本語版・韓国語版)
- ③「神の国は力である」
- ④「1つになろうよ!～命の絵本<命の糸に会う本>～トラクト版」  
 (日本語版・韓国語版)

これらの冊子が発行された順番は、私たち<ぶどうの木>の5年間の歩きであり、助け主=聖霊によって学んだことが集約されています。

この日本という国において、イエス・キリストという救い主⇒神様がおられることを宣べ伝えるためには、まず多くの日本人が仕えてきた仏教の成り立ちを知り、そこにある矛盾と何の力もないこと、①「日本人はだまされている」!! ことを伝えることが必要でした。

その知識を土台に、聖書にはどんなことが書かれてあるのかを知っていただき、未来への最高のプレゼントとなる唯一・真の神であるイエス様を受け入れることができる冊子②「未来へのプレゼント」をつくりました。イエス様が一人一人にご自身の存在をおし、偶像化されたすでに死んだ神ではなく、今も生きておられる神であることを、助け主=聖霊によって体験させていただき、という信仰のもと、この2冊の冊子をもって、日本全国で福音をしていきました。

その後、この仏教の国、日本で、クリスチャン人口わずか1パーセントという力のない現状を脱却するため、すでにクリスチャンになられている方々が神の“力”を得て躍進できるよう、私たちがイエス様から啓示され、学んだこと（聖霊の力と悪霊の存在）を知っていただく冊子③「神の国は力である」を作成しました。聖書を学び始めてわずか3年の主婦が選ばれ、神の“力”によって書き上げた冊子でした。

そして、神に喜ばれる人間になるための土台は家族・家庭にあることを聖書を通して教えられ、<ぶどうの木>聖書勉強会の新たな課題として、《家族の在り方》を学んでいくことになりました。まず、<ぶどうの木>に導かれた一人一人が、今までの自身の家族の在り方を振り返り、聖書の教えを基に正されていきました。さらに、これは私たちだけにとどまらず、今の社会問題に関係していることがわかり、日本人が忘れつつある“家族の絆”にもう一度目を向けていただきたいという思いから、④「1つになろうよ! ~命の絵本<命の糸に会う本>~トラクト版」を作成するに至りました。

また、<ぶどうの木>がほっそりするにあたり、たくさんの韓国人との出会いがありました。近くて遠い国と言われてきた韓国…そんな歴史をイエス様によって新たにするため、韓国と1つになりたい! 1つになれると信じて、「未来へのプレゼント」と「1つになろうよ! ~命の絵本<命の糸に会う本>~トラクト版」の韓国語版を作成し、すでに韓国の皆さんのもとにも届いています。

そして5冊目となったのがこの冊子です。いかがでしたか…? 聖書には、【眠っている者よ、起きなさい。死人のなかから、立ち上がりなさい。そうすれば、キリストがあなたを照すであろう。】(エペソ人への手紙5章14節b)と書かれています。日本人は、ずっと裸のまま、真理（神と人間の真の関係）を知らずに、知らされずに眠らされてきたのです。ですから、日本人には、裸の恥を見られないようにするための神の言・聖書のみことば=着物が身に着いていませんでした。



せいしょ はは たいない く た たんじょう かみさま  
聖書は、あなたを母の胎内で組み立て、誕生させた神様からの  
ラブレターです。そして、あなたの人生に対するすべての答えと、  
これから起こることが預言されています。これを知らずに生きる  
ことは、何も見えない、何も分からない、本当に眠っている状態と  
同じなのです。だから、あなたに目を覚まして立ち上がってほしい！  
そうすれば、キリスト(救い主イエス様)があなたを照らし、その  
人生を正しい道、幸いな道、平安な道に導いてくださることを、  
どうしてもお伝えしたかったのです。

もちろん、突然「あなたは裸だ！宗教は違う！」と言われても、  
戸惑うことばかりだと思います。宗教(偽物)と真理(本物)の  
違いを、ここで理論立てて説明することはできますが、それは  
どこまでも神学論になってしまうという結論に至りました。やはり  
この違いは、実際に体験した人間にしか分からないことだと思います。

ぜひ じしん たいけん  
是非、あなた自身が体験してください！…結局はそう言う事しか  
できないのですが、それを体験できるようにするためにも、まずは  
イエス・キリストという救い主を信じ、声に出して「イエス様を、  
私の救い主と信じます。」と告白していただきたいと思ひます。  
そして必ず、助け主=聖霊もいただいてください。(32ページの  
祈りをしてください。) そうすれば、あなた自身には何も変化が  
感じられなくても、その時に確実に神の守りの中に入ることが  
でき、救われます。そのぐらい簡単な、誰にでも平等に与えられて  
いる神側からの一方的なプレゼントなのです。

クリスチャンになるということは、決して、宗教(キリスト教=  
救い主教)をはじめることや、神という哲学や聖書の一連の規則を

う け い しゅぎょう かみ し  
受け入れたり、修行をして神を知ることはありません。  
“救い主であるイエス・キリストを自身の内にお迎えし、住んで  
いただく”ということ、真の神がいらっしゃることを認め、その神に  
従う意志を向けることです。その時必ず、助け主=聖霊があなた  
を守り、導いてくださいます。そして、このことこそが、宗教では  
なく真理なのだ！という真実に、自分自身が気づきはじめ、確信して  
いく中で、あなたはイエス様と一体となり、不動のクリスチャン  
になることができるのです。この体験・体得は、自分の“意思”  
を“意志”に変え、みことば=神の言=イエス様に服従する  
一日一歩の歩きによって得ることができます。そこには、あなたの  
過去(生い立ち)や年齢、クリスチャンになってからの年月は  
関係ありません。神は“意志”まではとられないお方であるがゆえに、  
あなたが“意志”を向けるだけなのです！

<ぶどうの木>には、冊子の他に、宗教と真理の違いを体験・  
体得し、救われたことの喜びを書き表している“証”というものが、  
たくさんありますので、興味のある方は、ぜひホームページや  
ブログを通して読んでいただけたら幸いです。  
それと共に、冊子の内容もホームページで紹介しています。  
①「日本人はだまされている」、②「未来へのプレゼント」、③「神の  
国は力である」、④「1つになろうよ！～命の絵本<命の糸に  
会う本>～トラクト版」を順番に読んでいただくことが、体験・体得  
への第一歩になります！是非ご一読ください。

「ぶどうの木」ホームページ <http://budounoki92.com/>

げんざい 現在、<ぶどうの木>は6年目を迎え、30名ほどで活動をして  
います。にんずう 人数は少ないですが、ひとりひとりがイエス様から、直接  
しんじざるを得ない体験、そしてせいれい 聖霊による、みことばで裏付けら  
れたあかし 証をいただいています。たくさんあるしゅうきょう 宗教(神々)の中から、  
きりすと 基督教を選んで入信した者は一人もいません。せいしょ 聖書に【あなた  
がたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選ん  
だのである。】(ヨハネによる福音書15章16節 a b) と書かれてある  
とお通り、イエス様ご自身がぜんこく 全国から自分の望む者たちを集めて  
こられたのです。あつ 集められたメンバーを見たら、あどろ 驚かれるかもしれ  
ません。ほんとう ほんとうに、ほんとうに壮絶な人生を歩んできた者ばかりだから  
です。しかし、イエス様は神の“力”をあらわすために、あえて  
な 無きに等しい者を選ばれ、わたしをきよ 聖さとせいれい 霊においてしゅくふく 祝福してくだ  
さいました。そして、【イエスは彼らを見つめて言われた、「人には  
できないが、神にはできる。神はなんでもできるからである。】(マルコ  
による福音書10章27節) と聖書に書かれてある通り、イエス様を  
しん 信じることによって、180度真反対に変えられた私たちは、  
ひびかみ 日々神の言葉とそれぞれがたいけん 体験してきたことを喜んでつた 伝えています。  
じぶん 自分がほんとうにたいけん 体験したからこそ、この事実をだいたん 大胆にうた 宣べ伝えることが  
でき、また、つた 伝えずにはいられないのです。わたし うちにおられる  
イエス様の愛が、わたしたちを動かす！これも真理のあかし 証のあらわれです。  
そして、わたしの願いはただ一つ、同じように全世界の人々が真理  
をし 知り、イエス・キリストによって皆がみな 一つになることです。  
イエス様は、【わたしのいましめは、これである。わたしがあなたがた  
をあい 愛したように、あなたがたも互にあい 愛し合いなさい。人がその  
とも 友のためにじぶん 自分の命をす 捨てること、これよりも大きな愛はない。】  
(ヨハネによる福音書15章12節～13節) とおっしゃいました。せんそう 戦争、

じしん 地震(津波、ほうしゃのう おせん 放射能汚染)、ききん… 次は何が起こってくるのか  
わからず、自分を守るのにせい いっばい 精一杯のこの時代、人々のあい 愛は冷えて  
いく一方です。しかし、ひとつの国で、ひとつの場所で、たった一人  
でもイエス様を信じ、せいしょ 聖書の言葉を実践していくクリスチャンが  
う 生まれれば、神はその人を使って、お 置かれた場所で大きな働きを  
な できるのです！

せいしょ 聖書には、【終りの時には、わたしのせいれい 霊をすべてのひとに注ごう。】  
(使徒行伝2章17節 b) と書かれてあります。まずはこの冊子をご覧  
になったすべてのひとが、あなたが！イエス様を選ばれたその一人  
であることを信じます。そして、たくさんの方々が私たちと同じよ  
うなたいけん 体験をし、せいしょ 聖書の言葉に従っていった時、互いにあい 愛し合い、  
せかい 世界は一つになることができるとかくしん 確信しています。

イエス・キリストは生きた神であり、信じる者は決して失望に  
お 終わりません。ぜ ひ みなもこの世から救われ、まこと 真の神・イエス様の  
ちから 力をたいけん 体験していただきたいと心から願っています。

さいご 最後にせいしょ 聖書からこの言葉を贈ります。

ヨハネの第3の手紙2節

【愛する者よ。あなたのたましいがいつもめぐ 恵まれていると同じく、  
あなたがすべてのことにめぐ 恵まれ、またすこやかであるようにと、  
わたしは祈っている。】

エペソ人への手紙3章17節～19節

【また、しんこう 信仰によって、キリストがあなたがたの心のうちにすみ、  
あなたがたが愛に根ざし愛を基としてせいかつ 生活することにより、すべて



【<sup>せいと</sup>聖徒と<sup>とも</sup>共に、その<sup>ひろ</sup>広さ、<sup>なが</sup>長さ、<sup>たか</sup>高さ、<sup>ふか</sup>深さを<sup>りかい</sup>理解することができ、  
また<sup>じんち</sup>人知をはるかに<sup>こ</sup>越えた<sup>あいし</sup>キリストの愛を知って、<sup>かみ</sup>神に<sup>み</sup>満ちている  
もの<sup>の</sup>すべてをもつて、<sup>い</sup>あなたがたが<sup>いの</sup>満たされるように、と<sup>いの</sup>祈る。】

### イザヤ書 6 1 章 1 節～3 節

【<sup>しゅ</sup>主なる<sup>かみ</sup>神の<sup>れい</sup>霊が<sup>のぞ</sup>わたしに<sup>しゅ</sup>臨んだ。これは<sup>あぶら</sup>主が<sup>そそ</sup>わたしに<sup>あぶら</sup>油を<sup>そそ</sup>注いで、  
<sup>まず</sup>貧しい<sup>もの</sup>者に<sup>ふくいん</sup>福音を<sup>の</sup>宣べ<sup>つた</sup>伝えることを<sup>ゆだね</sup>、<sup>わたし</sup>わたしをつか<sup>わして</sup>  
<sup>ころ</sup>心の<sup>いた</sup>ためる<sup>もの</sup>者を<sup>いやし</sup>いやし、<sup>とら</sup>捕われ<sup>びと</sup>人に<sup>ほうめん</sup>放免を<sup>つ</sup>告げ、<sup>しば</sup>縛られている  
<sup>もの</sup>ものに<sup>かいほう</sup>解放を<sup>つ</sup>告げ、<sup>しゅ</sup>主の<sup>めぐ</sup>恵みの<sup>とし</sup>年と<sup>かみ</sup>われわれの<sup>ほうふく</sup>神の報復の<sup>ひ</sup>日とを  
<sup>つ</sup>告げさせ、<sup>かな</sup>また、<sup>かな</sup>すべての<sup>もの</sup>悲しむ<sup>もの</sup>者を<sup>なぐさ</sup>慰め、<sup>シオン</sup>シオンの中<sup>なか</sup>の<sup>かな</sup>悲しむ  
<sup>もの</sup>者に<sup>よろこ</sup>喜びを<sup>あた</sup>与え、<sup>はい</sup>灰に<sup>かんむり</sup>かえて<sup>あた</sup>冠を<sup>かな</sup>与え、<sup>かな</sup>悲しみに<sup>よろこ</sup>かえて<sup>よろこ</sup>喜び  
<sup>あぶら</sup>の<sup>あた</sup>油を<sup>うれ</sup>与え、<sup>こころ</sup>憂いの<sup>こころ</sup>心にかえて、<sup>ころも</sup>さんびの<sup>あた</sup>衣を<sup>あた</sup>与えさせるため  
<sup>ある</sup>ある。こうして、<sup>かれ</sup>彼らは<sup>ぎ</sup>義の<sup>き</sup>かしの<sup>き</sup>木と<sup>しゅ</sup>となえられ、<sup>しゅ</sup>主がその  
<sup>えいこう</sup>栄光を<sup>う</sup>あらわすために<sup>もの</sup>植えられた<sup>もの</sup>者と<sup>もの</sup>となえられる。】

すべての<sup>えいこう</sup>栄光を<sup>さま</sup>イエス様に<sup>き</sup>帰して…  
＜<sup>き</sup>ぶどうの木＞<sup>いちどう</sup>一同より

「<sup>ぶどうの木</sup>ぶどうの木」という<sup>なまえ</sup>名前は、ヨハネによる<sup>ふくいんしょ</sup>福音書 1 5 章 1 節～7 節  
よりいただきました。以下全文です。

【わたしは<sup>まこと</sup>まことの<sup>ぶどうの木</sup>ぶどうの木、わたしの<sup>ちち</sup>父は<sup>のうふ</sup>農夫である。わたしに  
つながっている<sup>えだ</sup>枝で<sup>み</sup>実を<sup>むす</sup>結ばないものは、<sup>ちち</sup>父が<sup>ちち</sup>すべてこれを<sup>とり</sup>とり  
の<sup>み</sup>ぞき、<sup>み</sup>実を<sup>むす</sup>結ぶものは、<sup>ゆた</sup>もっと<sup>みの</sup>豊かに<sup>てい</sup>実らせるために、<sup>てい</sup>手入れ  
してこれを<sup>きれい</sup>きれいな<sup>な</sup>さるのである。あなたがたは、<sup>わたし</sup>わたしが  
<sup>かた</sup>語った<sup>ことば</sup>言葉によって<sup>すで</sup>既に<sup>き</sup>きよく<sup>さ</sup>されている。わたしに<sup>つなが</sup>つながって  
いなさい。そうすれば、わたしは<sup>あなた</sup>あなたがたと<sup>つなが</sup>つながっていよう。  
<sup>えだ</sup>枝が<sup>ぶどうの木</sup>ぶどうの木に<sup>つなが</sup>つながっていなければ、<sup>自分</sup>自分だけでは<sup>み</sup>実を<sup>むす</sup>結ぶ  
ことができないように、<sup>あなた</sup>あなたがたも<sup>わたし</sup>わたしに<sup>つなが</sup>つながっていな  
ければ<sup>み</sup>実を<sup>むす</sup>結ぶことができない。わたしは<sup>ぶどうの木</sup>ぶどうの木、あなたがたは  
その<sup>えだ</sup>枝である。もし<sup>人</sup>人が<sup>わたし</sup>わたしに<sup>つなが</sup>つながっており、<sup>また</sup>また<sup>わたし</sup>わたしが  
その<sup>ひと</sup>人と<sup>つなが</sup>つながっておれば、<sup>その人</sup>その人は<sup>み</sup>実を<sup>ゆた</sup>豊かに<sup>むす</sup>結ぶようになる。  
<sup>わたし</sup>わたしから<sup>はな</sup>離れては、<sup>あなた</sup>あなたがたは<sup>なに</sup>何一つ<sup>でき</sup>できないからである。  
<sup>ひと</sup>人が<sup>わたし</sup>わたしに<sup>つなが</sup>つながっていないならば、<sup>えだ</sup>枝の<sup>そと</sup>ように<sup>な</sup>外に<sup>な</sup>投げすて  
られて<sup>か</sup>枯れる。人々は<sup>ひと</sup>それを<sup>ひと</sup>かき<sup>あつ</sup>集め、<sup>ひ</sup>火に<sup>な</sup>投げ<sup>い</sup>入れて、<sup>や</sup>焼いて  
しまうのである。あなたがたが<sup>わたし</sup>わたしに<sup>つなが</sup>つながっており、<sup>わたし</sup>わたしの  
<sup>ことば</sup>言葉が<sup>あなた</sup>あなたがたにと<sup>どま</sup>どまっているならば、<sup>のぞ</sup>なんでも<sup>のぞ</sup>望むものを  
<sup>もと</sup>求めるがよい。そうすれば、<sup>あた</sup>与えられるであろう。】

<sup>せいしょ</sup>聖書エゼキエル書 3 4 章の<sup>しよ</sup>預言<sup>しよ</sup>です。

【<sup>しゅ</sup>主の<sup>ことば</sup>言葉が<sup>のぞ</sup>わたしに<sup>ひと</sup>臨んだ、「<sup>こ</sup>人の<sup>こ</sup>子よ、<sup>はくしゃ</sup>イスラエルの<sup>はくしゃ</sup>牧者たち  
に<sup>む</sup>向かって<sup>よげん</sup>預言せよ。預言して<sup>かれ</sup>彼ら<sup>はくしゃ</sup>牧者に<sup>い</sup>言え、<sup>しゅ</sup>主なる<sup>かみ</sup>神はこう

い  
言われる、わがわいなかな、自分自身を養うイスラエルの牧者。  
ぼくしゃ む やしな もの  
牧者は群れを養うべき者ではないか。ところが、あなたがたは  
しぼう た けおりのもの こ  
脂肪を食べ、毛織物をまとい、肥えたものをほふるが、群れを養  
われない。あなたがたは弱った者を強くせず、病んでいる者をいや  
さず、傷ついた者をつつまず、迷い出た者を引き返らせず、うせた  
もの たず かれ てあら おさ  
者を尋ねず、彼らを手荒く、きびしく治めている。彼らは牧者が  
ないために散り、野のもろもろの獣のえじきになる。わが羊は散ら  
されている。彼らはもろもろの山と、もろもろの高き丘にさまよい、  
わが羊は地の全面に散らされているが、これを捜す者もなく、尋ねる  
者もない。

それゆえ、牧者よ、主の言葉を聞け。主なる神は言われる、わたしは  
生きています。わが羊はかすめられ、わが羊は野のもろもろの獣の  
えじきとなっているが、その牧者はいない。わが牧者はわが羊を  
たず ぼくしゃ じしん やしな ひつじ やしな  
尋ねない。牧者は自身を養うが、わが羊を養わない。それゆえ  
ぼくしゃ しゅ ことば き しゅ かみ い み  
牧者らよ、主の言葉を聞け。主なる神はこう言われる、見よ、わたしは  
ぼくしゃ てき ひつじ かれ て もと かれ  
牧者らの敵となり、わたしの羊を彼らの手に求め、彼らにわたしの  
む やしな ふたた ぼくしゃ じしん やしな  
群れを養うことをやめさせ、再び牧者自身を養わせない。また  
ひつじ かれ ぐち すく かれ しょくもつ  
わが羊を彼らの口から救って、彼らの食物にさせない。

主なる神はこう言われる、見よ、わたしは、わたしみずからわが  
ひつじ たず さが だ ぼくしゃ ひつじ ち さ とき  
羊を尋ねて、これを捜し出す。牧者がその羊の散り去った時、その  
ひつじ む さが だ ひつじ さが だ くも  
羊の群れを捜し出すように、わたしはわが羊を捜し出し、雲と  
くら ひ ち ところ すく  
暗やみの日に散った、すべての所からこれを救う。わたしは彼らを  
もろもろの民の中から導き出し、もろもろの国から集めて、彼らの  
くに たずさ い やま うえ いずみ くに  
国に携え入れ、イスラエルの山の上、泉のほとり、また国のうちの  
ひと す ところ やしな よ まきば かれ  
人の住むすべての所でこれを養う。わたしは良き牧場で彼らを  
やしな まきば たか やま ところ かれ  
養う。その牧場はイスラエルの高い山にあり、その所で彼らは

よ ひつじ ふ やまやま うえ こ まきば くさ  
良い羊のおりに伏し、イスラエルの山々の上で肥えた牧場で草を  
く ひつじ か ふ しゅ  
食う。わたしはみずからわが羊を飼い、これを伏させると主なる  
かみ い たず まよ で ひ  
神は言われる。わたしは、うせたものを尋ね、迷い出たものを引き  
返し、傷ついたものを包み、弱ったものを強くし、肥えたものと  
つよ かんたく こうへい かれ やしな  
強いものとは、これを監督する。わたしは公平をもって彼らを養う。  
しゅ かみ い  
主なる神はこう言われる、あなたがた、わが群れよ、見よ、わたしは  
ひつじ ひつじ あいだ おひつじ お あいだ よ  
羊と羊との間、雄羊と雄やぎとの間をさばく。あなたがたは良き  
まきば くさ く くさ のこ あし ふ す みず の  
牧場で草を食い、その草の残りを足で踏み、また澄んだ水を飲み、  
その残りを足で濁すが、これは、あまりのことではないか。わが  
ひつじ ひつじ あし ふ く あし  
羊はあなたがたが、足で踏んだものを食い、あなたがたの足で  
にご の  
濁したものを、飲まなければならないのか。

それゆえ、主なる神はこう彼らに言われる、見よ、わたしは肥えた  
ひつじ ひつじ あいだ かた  
羊と、やせた羊との間をさばく。あなたがたは、わきと肩とをもって  
お つの よわ もの つ かれ そと お  
押し、角をもって、すべて弱い者を突き、ついに彼らを外に追い  
ち む たす ふたた  
散らした。それゆえ、わたしはわが群れを助けて、再びかすめ  
させず、羊と羊との間をさばく。わたしは彼らの上にひとりの牧者  
ひつじ ひつじ あいだ かれ うえ ぼくしゃ  
を立てる。すなわちわがしもベダビデである。彼は彼らを養う。  
かれ かれ やしな かれ ぼくしゃ しゅ かれ かみ  
彼は彼らを養い、彼らの牧者となる。主なるわたしは彼らの神と  
なり、わがしもベダビデは彼らのうちにあって君となる。主なる  
わたしはこれを言う。

わたしは彼らと平和の契約を結び、国の内から野獣を追い払う。  
かれ ところ やす あらの す もり なか ねむ  
彼らは心を安んじて荒野に住み、森の中に眠る。わたしは彼ら  
およびわが山の周囲の所々を祝福し、季節にしたがって雨を降  
らす。これは祝福の雨となる。野の木は実を結び、地は産物を出す。  
かれ ところ やす くに かれ ほう  
彼らは心を安んじてその国におり、わたしが彼らのくびきの棒を  
くだ かれ どれい もの て すく だ とき かれ  
砕き、彼らを奴隷とした者の手から救い出す時、彼らはわたしが

主であることを悟る。彼らは重ねて、もろもろの国民にかすめられることなく、地の獣も彼らを食うことはない。彼らは心を安んじて住み、彼らを恐れさせる者はない。わたしは彼らのために、良い栽培所を与える。彼らは重ねて、国のききんに滅びることなく、重ねて諸国民のはずかしめを受けることはない。彼らはその神、主なるわたしが彼らと共におり、彼らイスラエルの家が、わが民であることを悟ると、主なる神は言われる。あなたがたはわが羊、わが牧場の羊である。わたしはあなたがたの神であると、主なる神は言われる。】

「ぶどうの木」発行

2012.11.1

※みことばは、「口語訳聖書」(日本聖書協会)から引用しました。